

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎柔道整復学・総論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	第2校舎301
担 当 教 員	福士 暁也	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
人体の基本構造を理解し、脱臼の基礎を理解し、後期からの各論に繋げる。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) パソコン(パワーポイント・スピーカー)、各種計測機器など 【参考図書】グレイ解剖学, 身体運動の機能解剖, 標準整形外科						
《授業外における学習方法》						
柔道整復理論の教科書をベースにして、実技編および解剖学の教科書も参考にしながら、人体の構造を理解すると同時に脱臼のメカニズムを学習する。また各種動画等による受傷場面の確認も有用である。次回講義までの課題がある場合もある。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師の業務範囲である脱臼の基礎となる総論であり、国家試験にむけての3年間はもちろんのこと、卒業後の臨床でも重要となる基本的事項となります。初めての専門科目で難しい言葉が続きますので、教科書を解説するように心がけて進行を行ないます。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション 人体の組織構造を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	講義の進め方と評価方法について 人体の基本的構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の基本構造と種類を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	関節の基本的構造①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の形態的特徴を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	関節の基本的構造②			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各関節の可動域を知り、関節ごとの特徴を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	関節可動域の概説と各関節の確認			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節ごとの可動域測定方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	関節可動域の計測			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節ごとの可動域測定方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	関節可動域の計測②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の計測が出来る。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	体表解剖学～上肢の計測～		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の計測が出来る。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	体表解剖学～下肢の計測～		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼総論が理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	脱臼学総論		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の発生原因を理解している。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	脱臼学総論～発生原因～		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の分類が理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	脱臼学総論～分類～		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の症状が理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	脱臼学総論～症状～		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	合併症・整復障害・脱臼の経過と予後を理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	脱臼学総論～合併症・整復障害・脱臼の経過と予後～		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の範囲を理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	前期復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	理解度の確認を行ない、各部位ごとの脱臼の病態を理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	まとめと総復習 確認問題の実施		